

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化		
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保			
主な取組	石垣港の整備	実施計画 記載頁	296	
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	石垣港において、海上交通の安全性・安定性を確保するため、岸壁・防波堤の整備を行い、港湾機能の向上を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	岸壁・防波堤・泊地浚渫等				→	H29 大型旅客船 ターミナル 暫定供用	国 石垣市
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
石垣港港湾改修事業	国直轄	国直轄	国直轄により、岸壁・防波堤・泊地浚渫等の整備を行った。	再掲 3-(1)-1 P156
活動指標名			計画値	実績値
岸壁・防波堤・泊地浚渫等			-	整備中
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	岸壁、防波堤、泊地浚渫を一体的に整備することにより、船舶航行の安全が図られ、船舶を安全に係留し貨物等の荷役作業が可能となる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
石垣港港湾改修事業	国直轄	国直轄により、引き続き岸壁・防波堤・泊地浚渫等の整備を行う。	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人 (22年)	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、防波堤等の整備を行い港湾機能を向上させ、離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

外国船社やその代理店から、大型クルーズ船を沖縄へ寄港させたいとの声が高まっており、大型クルーズ船に対応したバース整備が課題となっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

国及び石垣市に対し、外国船籍の大型クルーズ船に対応した早期岸壁整備、CIQ施設等、受け入れ体制の強化を要望していく。

4 取組の改善案(Action)

県としては、引き続き、国や石垣市に対し早期整備や必要予算の確保等の要望を行うなど事業の促進を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化	
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保		
主な取組	平良港の整備	実施計画 記載頁	296
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	平良港において、大規模な地震が発生した場合の海上交通の安全性・安定性を確保するため、耐震強化岸壁の整備を推進し、港湾機能の向上を図っていく。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	耐震強化岸壁整備 ふ頭用地、臨港道路・緑地等の整備					H29 漲水地区 供用開始	国 平良市
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
平良港湾改修事業	国直轄	国直轄	国直轄による、耐震強化岸壁整備、ふ頭用地、臨港道路、緑地等の整備	再掲 2-(4)-イ P126 3-(1)-イ P156
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	大規模な地震が発生した場合、海上からの緊急輸送物資の輸送による災害支援・救助活動を円滑に行うことが出来るよう、緊急物資の保管、避難場所に利用できる岸壁背後のふ頭用地、臨港道路、緑地等も一体となって整備を行うことにより、海上交通の安全性・安定性を確保する。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
平良港湾改修事業	国直轄	国直轄により、引き続き耐震強化岸壁整備、ふ頭用地、臨港道路、緑地等の整備を行う	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人 (22年)	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、港湾機能を向上させ離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

外国船社やその代理店から、大型クルーズ船を沖縄へ寄港させたいとの声が高まっており、大型クルーズ船に対応したバース整備が課題となっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

国及び宮古島市に対し、外国船籍の大型クルーズ船に対応した早期岸壁整備、CIQ施設等、受け入れ体制の強化を要望していく。

4 取組の改善案(Action)

県としては、引き続き、国や宮古島市に対し早期整備や必要予算の確保等の要望を行うなど事業の促進を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化		
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保			
主な取組	伊江港整備事業	実施計画 記載頁	296	
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	伊江港において、港内の船舶航行、接岸時における船舶の動揺を抑えるため防波堤の整備を行い、港湾機能の向上を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	防波堤 全長270m						県
	防波堤 泊地浚渫						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
伊江港整備事業	404,500 (337,000)	234,668	伊江港において、港湾機能を向上させるための防波堤整備、泊地浚渫を行った。【各省計上】	-
活動指標名			計画値	実績値
防波堤整備、泊地浚渫			L=270m	完了
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	防波堤を整備することにより、港内静穏度が確保され船舶航行の安全が図られる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
-	-	-	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成24年度で伊江港における防波堤、泊地浚渫の整備を完了した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人 (22年)	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、防波堤等の整備を行い港湾機能を向上させ、離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

1)伊江港は沖縄本島との定期航路があるため、事業を執行するにあたっては、船会社および利用者の利便性に配慮しながら整備を推進する必要がある。
2)防波堤の整備については、環境に配慮するとともに、海洋利用者の理解を得ながら整備を行った。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

他港湾の海上工事においても、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進させていく。

4 取組の改善案(Action)

他港湾の海上工事においても、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化	
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保		
主な取組	前泊港整備事業	実施計画 記載頁	296
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	前泊港において、港内の船舶航行、接岸時における船舶の動揺を抑えるため防波堤の整備を行い、港湾機能の向上を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	防波堤 全長794m	→					県
	防波堤整備						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
前泊港整備 事業	265,233 (160,513)	254,680	前泊港において、防波堤の基礎工事となるマウンド工事を行った。【各省計上】	-
活動指標名			計画値	実績値
防波堤整備			-	L=754m
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	防波堤を整備することにより、港内静穏度が確保され船舶航行の安全が図られる。防波堤整備の進捗率は約95%となっている。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
前泊港整備 事業	130,000	防波堤(L=40m)の整備を推進し、港湾機能の向上を図るため早期事業完了を目指す。【一括交付金(ハード)】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人 (22年)	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、防波堤等の整備を行い港湾機能を向上させ、離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- 1) 工事期間中は、定期船などの港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要がある。
- 2) 環境及び海域利用者に配慮しなければいけないため、事業期間に制限がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- 1) 港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行う。
- 2) 事業期間に制限がある中で環境に配慮し、海域利用者の理解を得ながら事業を行う。

4 取組の改善案(Action)

- 1) 港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。
- 2) 他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化		
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保			
主な取組	兼城港整備事業	実施計画 記載頁	296	
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	兼城港の兼城地区及び花咲地区において、安全な船舶の係留及び人や貨物の積み卸しができるよう、岸壁整備を行い港湾機能向上を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	岸壁 全長100m	→	岸壁 全長100m	→			県
	岸壁(兼城地区)、岸壁(花咲地区)						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
兼城港整備事業	94,126 (17,945)	42,435	兼城港(兼城地区)において岸壁の整備を行った。 【内閣府計上】	-
活動指標名			計画値	実績値
岸壁(兼城地区)、岸壁(花咲地区)			-	整備中
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	老朽化した岸壁の改良により、荷役作業と港湾施設の安全性確保及び定期船の安定就航が図られる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
兼城港整備事業	260,000	前年度に引き続き岸壁の整備を行う。【内閣府計上】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

埋立を伴う事業であるため工程がやや遅れているが、工期短縮に努め早期の事業効果を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、防波堤等の整備を行い港湾機能を向上させ、離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- 1) 工事期間中は、定期船などの港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要がある。
- 2) 埋め立てを伴う工事のため、環境に配慮し整備を推進する必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- 1) 港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行う。
- 2) 他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進させていく。

4 取組の改善案(Action)

- 1) 港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。
- 2) 他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化			
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保				
主な取組	南大東港整備事業	実施計画 記載頁	296		
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容	南大東港において、安全な船舶の係留及び人や貨物の積み卸しができるよう、岸壁整備を行い港湾機能向上を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	岸壁 全長100m			→			県
	岸壁・泊地浚渫						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
南大東港整備事業	171,063 (29,305)	140,192	岸壁・泊地浚渫等の整備を行った。【内閣府計上】	-
活動指標名			計画値	実績値
岸壁・泊地浚渫等の整備			-	整備中
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	岸壁改良と泊地浚渫により、荷役作業と港湾施設の安全性確保による定期船の安定就航が図られる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
南大東港整備事業	90,000	前年度に引き続き岸壁・泊地浚渫等の整備を行う。【内閣府計上】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

南大東港においては、台風や冬季の波浪が港湾工事へ及ぼす影響が大きく、必然的に工事時期が限られ、工期も定期船等の港湾利用と調整しながら、早期完成に向け取り組んでいる。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、岸壁等の整備を行い港湾機能を向上させ、離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

1)南大東港においては、台風や冬季の波浪が港湾工事へ及ぼす影響が大きく、必然的に工事時期が限られる。
2)工事期間中は、定期船等の港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

1)台風や冬季波浪等の影響を十分に予測した施工計画の立案、工程管理を行う。
2)港湾利用者と工事の進め方や工程等を調整しながら施工を行う。

4 取組の改善案(Action)

1)台風や冬季波浪等の影響を十分に予測した施工計画の立案、工程管理を行い事業の推進を図る。
2)港湾利用者と工事の進め方や工程等を調整しながら施工を行い事業の推進を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化		
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保			
主な取組	北大東港整備事業	実施計画 記載頁	296	
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	港湾施設用地が狭小であるため、荷役作業の効率が悪く危険であることから港湾施設用地の拡張を行う。 また、天候の急変から、波が港湾施設用地へ溯上し、貨物が流される恐れがあることから、岸壁の嵩上げを行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	岸壁 全長100m			→			県
	岸壁・泊地浚渫						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
北大東港 整備事業	162,930 (63,116)	133,517	北大東島において、岸壁の整備を行った。 【内閣府計上】	-
活動指標名			計画値	実績値
岸壁			-	整備中
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	岸壁の延長を行うことで、船舶の安全な停泊を図ることができる。加えて、岸壁の嵩上げを行うことで波の溯上を抑止し、貨物の安全確保が図られる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
北大東港 整備事業	90,000	前年度に引き続き岸壁・泊地浚渫等の整備を行う。 【内閣府計上】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

北大東港においては、台風や冬季の波浪が港湾工事へ及ぼす影響が大きく、必然的に工事時期が限られ、工期も定期船等の港湾利用と調整しながら、早期完成に向け取り組んでいる。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人 (22年)	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、岸壁等の整備を行い港湾機能を向上させ、離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- 1)北大東港においては、台風や冬季の波浪が港湾工事へ及ぼす影響が大きく、必然的に工事時期が限られる。
- 2)工事期間中は、定期船等の港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- 1)台風や冬季波浪等の影響を十分に予測した施工計画の立案、工程管理を行う。
- 2)港湾利用者と工事の進め方や工程等を調整しながら施工を行う。

4 取組の改善案(Action)

- 1)台風や冬季波浪等の影響を十分に予測した施工計画の立案、工程管理を行い事業の推進を図る。
- 2)港湾利用者と工事の進め方や工程等を調整しながら施工を行い事業の推進を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化	
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保		
主な取組	浮き棧橋整備事業	実施計画 記載頁	296
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	渡嘉敷港において、船舶への乗り降りや貨物の積み卸しの安全性、利便性を確保するため浮き棧橋の整備を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1基	2基	1基				県
	渡嘉敷港・長山港・多良間港等の 浮き棧橋の整備						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
浮き棧橋 整備事業	391,695 (16,695)	20,805	渡嘉敷港における浮き棧橋実施設計を行った。 【一括交付金(ハード)】	再掲 1-(7)-ア P70
活動指標名			計画値	実績値
浮き棧橋1基			-	1基
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	船舶へ乗降する際に、潮の干満による高低差に不便を強いられていたが、浮き棧橋を設置することにより、船舶における乗降への安全性、利便性が確保される。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
浮き棧橋 整備事業	590,000	前年度において浮き棧橋の実実施設計が完了した。本年度は引き続き浮き棧橋工事を発注する。【一括交付金(ハード)】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人 (22年)	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	平成28年度目標値の達成に向け事業推進中である。 各離島港湾において、要望が強い浮き棧橋整備を過年度より順次行ってきており、1基/年程度の割合で事業を進捗させていく計画である。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- 1)各離島港湾において、浮き棧橋の設置についての要望が多い。
- 2)老朽化が進んでいる浮き棧橋がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- 1)優先順位をつけ各港湾単位で、浮き棧橋を整備していく。
- 2)各離島港湾において、老朽化している浮き棧橋の調査を行う。

4 取組の改善案(Action)

- 1)優先順位をつけ各港湾単位で、浮き棧橋の整備を推進していく。
- 2)今後、老朽化している浮き棧橋の調査を行い補修及び新設についての検討を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化		
施策	②安全で安定した海上交通の維持・確保			
主な取組	竹富南航路整備事業	実施計画 記載頁	297	
対応する 主な課題	港湾及び港湾機能をもった漁港については、離島住民のライフラインを確保する上で極めて重要であるため、海上交通の安全性・安定性の確保、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備など、港湾機能の向上を図っていく必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	現在の航路は、サンゴ礁海域に位置し、航路幅が狭小である。近年、大幅に増加する観光客および貨物の輸送、船舶の大型化に対応するため航路浚渫を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	航路浚渫						国 県
	竹富南航路整備(開発保全航路・小浜航路・黒島航路)						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
竹富南航路整備事業	75,000	28,896	航路浚渫に必要な実施設計業務を行った。 【内閣府計上】	-
活動指標名			計画値	実績値
航路浚渫、竹富南航路整備			-	整備中
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	狭小である航路の解消で船舶の大型化対応が可能となり、さらなる人流・物流が図れるほか、八重山圏域の地域住民や観光客が利用する船舶の航行安全が確保される。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
竹富南航路整備事業	220,000	航路の浚渫工事を行う。【内閣府計上】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

石西礁瑚内における浚渫工事であることから、濁流防止などの工法を検討し事業へ反映した。浚渫に伴う漁業補償も完了したことから浚渫工事に着手可能となった。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
離島航路の船舶乗降人員実績	584万人 (H22年)	集計中	増加	集計中	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	地方港湾における船舶乗降人員の実績は、台風による影響や冬季波浪の影響にもよるが、微減の傾向にあるため、防波堤等の整備を行い港湾機能を向上させ、離島航路における船舶乗降人員を増加させていきたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- 1) 工事期間中は、定期船などの港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要がある。
- 2) 環境に配慮し整備を推進する必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- 1) 港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行う。
- 2) 他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進させていく。

4 取組の改善案(Action)

- 1) 港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。
- 2) 他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進する。